

## 科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成 25 年 6 月 11 日現在

機関番号： 32677  
研究種目： 基盤研究（B）  
研究期間： 2009 ～ 2012  
課題番号： 21401026  
研究課題名（和文） 近代中国における回民コミュニティの経済的・文化的活動  
研究課題名（英文） The economic and cultural activities of Muslim Chinese communities in modern China.  
研究代表者  
黒岩 高（KUROIWA TAKASHI）  
武蔵大学・人文学部・教授  
研究者番号： 60409365

研究成果の概要（和文）：本研究課題では、計 9 回の合同調査を行い、聞き取りデータ、碑刻資料、現地出版の文献資料などを得た。

この活動を通じて、多くのイスラーム協会関係者・現地ムスリム識者との良好な交流を構築できたことはこの分野の研究活動の活性化につながる成果の一つである。

また、調査活動と収集資料の分析を通じて、下記のような共通認識を参加研究者の間で共有されたことが研究上の成果であったと言える。

- (1) 各回民コミュニティの社会・文化・経済的な特徴の独自性が予想よりも大きく、個々のコミュニティの形成について個別の調査・研究を進めて行く事が重要であること。
- (2) 上記の多様性・個別性が、中華人民共和国における「民族」の枠組みを改めて考える上での基軸となりうること。
- (3) 各コミュニティに残されたアラブ・ペルシャ語碑文には漢語資料とは異なる情報が含まれており、回民コミュニティの形成過程を解明する上で、極めて重要であること。
- (4) 伝統武術に代表される、ムスリム伝統文化の各コミュニティにおける重要性。

これらの共通認識と資料分析の結果は、既に発表された学術論文、図書、小論、学会発表、及びホームページ上に公開された各参加者の小論・レポートに反映されている（主な発表論文等、及びその他を参照）。

なお、収集資料の分析はいまだ途上にある。そのため、分析結果の成果として論文集の出版を計画しており、25 年度末までに出版準備を終え、26 年度に出版助成を申請する予定である。

研究成果の概要（英文）：

In this research, nine joint surveys were conducted to acquire interview data, historical inscriptions, local publication documents and other relevant material.

Through our research process, we have built a positive relationship with the members of local Islam associations and local Muslim intellectuals, which will lead to the activation in this field of research.

Another result of this research is that through field researches and analysis of collected resources, our member researchers have reached a sharing understanding composed of the following.

(1) Individuality of the social, cultural and economic characteristics of Muslim communities differ greatly, making it important to conduct survey and research individually on the formation of each community.

(2) The individuality and diversity noted above could become the basis of recriticizing the frame work of “nationality” or “ethnic group” in People’ s Republic of China.

(3) The inscriptions written in Arab-Persian languages remaining in each community contains different information as seen in the resources written in Chinese, makes it extremely important in understanding the forming process of Muslim communities.

(4) The importance of traditional culture in each Muslim community, for example, traditional muslim martial arts.

These shared understandings are reflected in each research member’ s published academic paper, book, article, academic presentation and papers on the web.

交付決定額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2009年度	2,000,000	600,000	2,600,000
2010年度	2,500,000	750,000	3,250,000
2011年度	2,500,000	750,000	3,250,000
2012年度	2,400,000	720,000	3,120,000
年度			
総計	9,400,000	2,820,000	12,220,000

研究分野：東洋史

科研費の分科・細目：基盤（B） 海外学術調査

キーワード：東洋史 回民 イスラーム 中国ムスリム 少数民族 碑刻

#### 1. 研究開始当初の背景

回民についての歴史的研究は、個別的には一定の蓄積があり、大きな問題提起もなされている。しかし、それらに基づきつつも、さらに具体的な理解を可能とする材料を入手し、各回民コミュニティの文化的・経済的活動という視点から回民のエスニシティ形成を歴史的に明らかにする必要がある。

#### 2. 研究の目的

中国各地の回民コミュニティの歴史的変遷を考察することをめざす。とくに、各地コミュニティのありかたの多様性とコミュニティ相互のネットワークに注目する。また、イスラームによって特徴づけられる回民のエスニシティが、どのように自律的な文化的・経済的活動によって歴史的に再構築されてきているかを問う。

#### 3. 研究の方法

各地の回民コミュニティを訪問して、その歴史を知る手がかりを収集して分析を進める。その手がかりとは、①清真寺などに残された碑文、②回民の刊行した文献、③オーラル・ヒストリー、の三種である。

#### 4. 研究成果

本研究課題では、研究代表者、研究分担者、連携研究者、研究協力者との共同で計9回の合同調査を行い、聞き取りデータ、数百点の碑刻資料、現地出版の文献資料などを得た。

この活動を通じて、多くのイスラーム協会関係者・現地ムスリム識者との交流が発生したことは、今後のこの分野の研究に大きく寄与する人的交流上の成果であった。

また、調査活動と収集資料の分析を通じて、下記のような共通認識を参加研究者の間で共有されるようになったことが研究上の成果であったと言える。

(1) 各回民コミュニティの社会・文化・経済的な特徴の独自性が予想されたよりもより大きく、地方的な傾向を考慮しつつ個々のコミュニティの形成について個別の調査・研究を進めて行く事が重要であること。

(2) 上記の多様性・個別性が、中華人民共和国における「民族」の枠組みを改めて考える上での基軸となりうること。

(3) 各コミュニティに残されたアラブ・ペルシャ語碑文には、これまでの漢語資料研究

では発見されなかった情報が見出だされる。ゆえに回民コミュニティの形成過程を解明する上で、極めて重要な情報ソースであること。

(4) 伝統武術に代表される、伝統文化の各コミュニティにおける重要性。

これらの共通認識と資料分析の結果は、既に発表された学術論文、図書、小論、学会発表（該当欄参照）、及びHP上（その他の欄を参照）に掲載された、各参加者の小論に反映されている。

なお、収集資料の分析はいまだ途上にある。そのため、分析結果の成果として論文集の出版を計画しており、25年度末までに出版計画を終え、26年度に出版助成を申請する予定である。

## 5. 主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計8件）

中西竜也（研究分担者）、森本一夫（研究分担者）、黒岩高（研究代表者）（左記三名の共著）「17・18世紀交替期の中国古行派イスラーム：開封・朱仙鎮のアラビア語碑文の検討から」『東洋文化研究所紀要』（東京大学）第162冊、2012年12月、120（223）-55（288）（査読あり）。

吉澤誠一郎（研究分担者）（単著）「近代中国における進化論受容の多様性」『メトロポリタン史学』第7号、pp. 67-91、2011年12月（査読あり）。

吉澤誠一郎（研究分担者）（単著）「19～20世紀における中国経済の動態」『歴史学研究』878号、pp. 14-17、2011年4月（査読なし）。

青木 隆（研究分担者）（単著）「劉智と明末清初の気象学」『日本大学文理学部人文科学研究紀要』80号（2010年）、13-28頁（査読なし）。

青木 隆（研究分担者）（単著）「李贄——思想言語を獲得したムスリム知識人の先駆」『アジア遊学』129号（2009年12月）、45-60（査読なし）。

佐藤 実（研究分担者）（単著）「イスラームと儒教の距離——中国イスラーム思想の歴史 王岱與、馬注、劉智」『アジア遊学』129号（2009年12月）、31-44（査読なし）。

黒岩 高（研究代表者）（単著）「中国ムスリム・コミュニティの形成と多様性」『アジア遊学』129号（2009年12月）、19-30（査読なし）。

黒岩 高（研究代表者）（単著）「近くて遠いアジアの国——イスラームの中国」早稲田大学アジア研究機構 『ワセダアジアレビュー』No.6（2009年8月）、34-39頁（査読なし）。

〔学会発表〕（計7件）

中西竜也（研究分担者）Nakanishi, Tatsuya. “Islam holding dialogues with China.”

The 53<sup>rd</sup> Hakubi seminar, held at The Hakubi Center for advanced research (Kyoto University, iCeMS West Wing 2F, Seminar Room) in January 8, 2013.

森本一夫（研究分担者）「回民とイスラーム世界：河南省のあるアラビア語碑文の検討から」 第二回復旦大学文史研究院、東京大学東洋文化研究所、プリンストン大学東アジア学部共催国際学術会議 「世界史/グローバル・ヒストリーにおける東アジア」、2012年12月16日、復旦大学文史研究院（上海）。

吉澤誠一郎（研究分担者）Seiichiro

Yoshizawa, “Chinese Nationalism and the

Concept of Empire in the Twentieth

Century,” 7th Anglo-Japanese Conference of

Historians, 12th September 2012 Trinity

Hall, University of Cambridge (United

Kingdom).

森本一夫（研究分担者）「回民が用いた垂文・

波斯文典拠：17・18世紀交替期河南省の碑文

の検討から」 北海道中央ユーラシア研究会

第100回記念大会、2012年7月14日、北海道大

学スラブ研究センター。

青木 隆（研究分担者）「清朝中国ムスリム・

劉智の小世界と大世界」国際日本文化研究セ

ンター・共同研究会、2011年9月24日、国

際日本文化研究センター。

佐藤実（研究分担者）「中国イスラームの「積

疑」—布教とは別のありかた—」阪神中哲談

話会第388回例会、2010年10月、茨木市市民会

館。

中西 竜也（研究協力者）「スーフイズムと

タオイイズム——19世紀中国西北部における

対話——」東洋史研究大会、2010年11月3

日、京都大学。

黒岩 高（研究代表者） 「大文化」によりそ

いつつ「小文化」をまもる—中国ムスリムの

「経学」と「漢文イスラーム文献」— 第9回

日・韓歴史家会議 —文化：受容と発展—セ

ッション1「大きな文化と小さな文化」 2009

年10月31日、韓国済州島。

〔図書〕(計2件)

中西竜也 (研究分担者) 『中華と対話するイスラーム——17-19世紀中国ムスリムの思想的営為』京都大学出版会、2013年3月31日、xvi+426頁。

森本一夫 (研究分担者) 編 『ペルシア語が結んだ世界：もうひとつのユーラシア史』北海道大学出版会、2009年6月、x + 251頁。

〔その他〕

ホームページ等

①ホームページ

<http://kaimin-commu-21-24.blogspot.jp/>

②既刊の小論等 (計11件)

黒岩 高 (研究代表者) 『『小経』—アラビア文字で漢語を書く—』中国ムスリム研究会編『中国のムスリムを知るための60章』明石書店、2012年8月、71-75。

黒岩 高 (研究代表者) 『『門宦』—神秘主義教団の歴史的展開』中国ムスリム研究会編『中国のムスリムを知るための60章』明石書店、2012年8月、213-217。

黒岩 高 (研究代表者) 『『回民蜂起』—清朝政府とムスリムと回民—』中国ムスリム研究会編『中国のムスリムを知るための60章』明石書店、2012年8月、218-222。

黒岩 高 (研究代表者) 「中国ムスリムの武術」中国ムスリム研究会編『中国のムスリムを知るための60章』明石書店、2012年8月、273-275。

吉澤誠一郎 (研究分担者) 「社会史」岡本隆司・吉澤誠一郎編『近代中国研究入門』東京大学出版会、2012年8月、pp. 25-55。

中西竜也 (研究分担者) 「経堂語とその周辺——回族が使う言葉」中国ムスリム研究会編『中国のムスリムを知るための60章』明石書店、2012年8月、66-70。

中西竜也 (研究分担者) 「経堂教育——清真寺

におけるイスラーム教育」中国ムスリム研究会編『中国のムスリムを知るための60章』明石書店、2012年8月、157-161。

中西竜也 (研究分担者) 「中国イスラームの経典——中国に流布したアラビア語・ペルシア語文献」中国ムスリム研究会編『中国のムスリムを知るための60章』明石書店、2012年8月、162-167。

佐藤実 (研究分担者) 「回儒—中国イスラームの思想的営為」中国ムスリム研究会編『中国のムスリムを知るための60章』明石書店、2012年8月、208-212。

吉澤誠一郎 (研究分担者) 「中国近代都市の社会変遷と文化再造」大阪市立大学都市文化研究センター編『都市の歴史的形成と文化創造力』清文堂出版、2011年3月、135-153。

森本一夫 (研究分担者) 「序章 ものを書くことから見たペルシア語文化圏：その面的把握をこえて」森本一夫編『ペルシア語が結んだ世界：もうひとつのユーラシア史』北海道大学出版会、2009年6月、1-36。

## 6. 研究組織

### (1) 研究代表者

黒岩 高 (KUROIWA TAKSHI)

武蔵大学人文学部教授

研究者番号：60409365

### (2) 研究分担者

① 吉澤誠一郎

(YOSHIZAWA SEIICHIRO)

東京大学大学院・人文社会系研究科  
准教授

研究者番号：80272615

② 佐藤 実 (SATO MINORU)

大妻女子大学・比較文化学部 准教授

研究者番号：70447671

③ 森本一夫 (MORIMOTO KAZUO)

東京大学・東洋文化研究所 准教授

研究者番号：00282707

④ 中西竜也 (NAKANISHI TATSUYA)

京都大学・白眉センター 助教

研究者番号：40636784

### (3) 連携研究者

① 青木 隆 (AOKI TAKASHI)

日本大学・文理学部 教授

研究者番号：20349947

※ 但し、2010～2011 年度、研究分担者。

② 古市大輔 (FURUICHI DISUKE)

金沢大学・歴史言語文化学系 准教授

研究者番号：40293328